



[□](#) / [Editors](#) / Text Editor

Text Editor

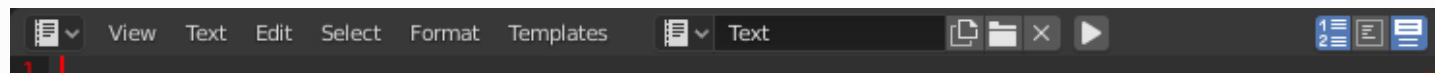
Blenderにはエディタタイプの中にテキストエディタがあり、エディタタイプメニュー、またはショートカット **Shift-F11**.

Header

新しく開いたテキストエディタは空っぽで、非常にシンプルなヘッダを備えています。テキストファイルが作成されたり、開かれたりすると、より多くのオプションが利用可能になります。



Text header.



Text header with a text loaded.

Editor Type

標準のエディター選択ボタンです。

Menus

編集部のメニューです。

Resolve Conflict

外部テキストファイルが他のプログラムから更新された場合の修正ファイルの競合を解決します。

Reload from Disk

ファイルをドライブから再度開き、ローカルでの変更を上書きします。

Make Text Internal

外部のテキストデータブロックを内部のテキストデータブロックに変換します。

Ignore

外部テキストファイルが再び外部で変更されるまで、警告メッセージを非表示にします。

Text

[[data-block menu](#)]で、テキストを選択したり、新規に作成したりすることができます。その後、ヘッダーが変更されます。

Run Script (play icon)

テキストをPythonスクリプトとして実行する[[Template Menu](#)]を参照

Show

表示オプションを切り替えます。
行番号、ワードラップ、シンタックスハイライティング

Script Node Update (refresh icon)

OSLファイルが開かれると、[[Shader Script](#)] ノードがスクリプトからの新しいオプションとソケットで更新されます。

View Menu

Sidebar Ctrl1-T

[[Sidebar](#)]を表示／非表示にする

Line Numbers

テキストファイルの行数を [[Main View](#)]の左側に表示します。

Word Wrap

長すぎて横のスペースに収まらない単語を、新しい「擬似行」に押し込んで折り返します。

Syntax Highlight

プログラミング言語Pythonで使用される特殊な単語を、[[Main View](#),]で色分けします。

Highlight Line

背景の色を変えることで、アクティブなラインを強調することができます。

Navigation

Top Ctrl1-Home

テキストファイルの先頭にビューとカーソルを移動します。

Bottom Ctrl1-End

表示とカーソルをテキストファイルの末尾に移動します。

Line Begin Home

カーソルを現在の行の先頭に移動します。

Line End End

カーソルを現在の行の末尾に移動します。

Previous Line Up

カーソルを現在の行の上の行の同じ位置に移動します。

Next Line Down

カーソルを現在の行の下の方の同じ位置に移動します。

Previous Word Ctrl1-Left

カーソルを前の単語の先頭に移動させます。カーソルが単語の途中にある場合、カーソルを現在の単語の先頭に移動させる。

Next Word Ctrl-Right

カーソルを次の単語の末尾に移動させます。カーソルが単語の途中にある場合、カーソルを現在の単語の末尾に移動させる。

Text Menu

新規 Alt-N

Creates a new text Data Block.

テキストブロックを開く Alt-O.

ファイルブラウザで選択されている外部テキストファイルを読み込みます。

リロード Alt-R

現在のバッファを開き直す（再読み込み）（保存されていない変更はすべて失われる）。

保存 Alt-S

すでに開いているファイルを保存します

別名で保存 Shift-Ctrl-Alt-S.

テキストを新規テキストファイルとして保存し、[[File Browser](#)]を開いて保存するディレクトリを選択し、ファイル名とファイル拡張子を指定します。

Register

ブレンドファイルを読み込むと、テキストデータブロックをPythonスクリプトとして実行します。Pythonモジュールの登録については、[[API documentation](#)].で詳しく説明しています。

Live Edit

Todo.

Run Script Alt-P

テキストをPythonスクリプトとして実行します。詳しくは [[Running Scripts](#)] をご覧ください。

Edit Menu

Undo/Redo

元に戻す [[Undo & Redo](#)].を参照してください。

Cut Ctrl-X

マークしたテキストをテキストクリップボードに切り出す。

Copy Ctrl-C

マークされたテキストをテキストクリップボードにコピーする。

Paste Ctrl-V

クリップボードからテキストエディターのカーソル位置にテキストを貼り付けます。

Duplicate Line Ctrl-D

現在の行を複製します。

Move Line(s) Up Shift-Ctrl-Up

現在/選択されている行を上の方と入れ替えます。

行を下に移動する **Shift-Ctrl-Down**

現在/選択されている行と下の行を入れ替えます。

検索と置換 **Ctrl-F**

サイドバーの検索と置換パネルを表示します

選択範囲の検索と設定 **Ctrl-G**

選択されているテキストの次のインスタンスを検索します。

ジャンプ先 **Ctrl-J**

カーソルを移動させる行番号を選択するポップアップを表示します。

テキストオートコンプリート **Tab**

テキストで既に使用されている単語の選択可能なリストを表示します。

Text to 3D Object

テキストファイルを [Text Object] に変換します ([1オブジェクト] または [1行に1オブジェクト])。

Select Menu

All **Ctrl-A**

テキストファイル全体を選択します。

Line **Shift-Ctrl-A**

現在の行をすべて選択します。

Word double-click **LMB**

現在の単語全体を選択します。

Top **Shift-Ctrl-Home**

カーソルの上にあるものをすべて選択します。

Bottom **Shift-Ctrl-End**

カーソルより下をすべて選択します。

Line Begin **Shift-Home**

現在の行の先頭とカーソルの間のすべてを選択します。

Line End **Shift-End**

カーソルから現在の行の終わりまでのすべてを選択します。

Previous Line **Shift-Up**

カーソルと1行上のカーソル位置の間のすべてを選択します。

Next Line **Shift-Down**

カーソルと1行下のカーソルの位置との間のすべてを選択します。

Previous Word **Shift-Ctrl-Left**

カーソルと前の単語の先頭の間のすべてを選択します。
カーソルが単語の途中にある場合は、現在の単語の先頭までをすべて選択します。

Next Word **Shift-Ctrl-Right**

カーソルと次の単語の末尾の間のすべてを選択します。カーソルが単語の真ん中にある場合は、現在の単語の終わりまですべてを選択します。

Format Menu

Indent Tab

カーソルの位置にタブ文字を挿入します。

インデント解除 **Shift-Tab**.

選択範囲の字下げを解除します。

コメントの切り替え **Ctrl-Slash**.

選択されている行が Python コメントであるかどうかを切り替えます。選択されている行がない場合は、現在の行がトグルされます。行が選択されていない場合は、現在の行がトグルされます。

Convert Whitespace

インデント文字を空白またはタブに変換します。

Template Menu

テキストエディタには、専用のPythonスクリプトが用意されており、以下のようなツールを書くのに便利です。クラス/関数/変数ブラウザ、補完...などのツールを書くのに便利です。

Python、OpenShading言語

Main View

キーボードで入力すると、テキストバッファにテキストが出力されます。

通常通り、LMBを押し、ドラッグして離すとテキストが選択されます。RMBを押すと、コンテキストメニューが表示されます。

□ Tip

テキストエディタの使用方法

テキストエディターは、ブレンダーファイルを他の人と共有したいときにも便利です。

テキストエディタは、ブレンダー・ファイルの内容を説明するREADMEテキストを書き込むのに使用できます。保存の際には、必ず表示したまま保存してください！

Sidebar

Find & Replace

Find Text **Ctrl-F**

カーソル位置の後にあるテキストを検索します。スポイトアイコンを使うと、現在選択されているテキストを検索し、一致するテキストを選択範囲に設定します

。Find Nextは、そのテキストの次のインスタンスを検索します。

Replace Text Ctrl-H

Find Textで指定されたテキストを検索し、新しいテキストに置き換えます。スポイトのアイコンを使用すると、現在選択されているテキストが置換テキストとして設定されます。置換は、次に一致するテキストを検索して置換します。

すべて置換は、一致するテキストを検索し、一致するテキストが出現するすべての回数を新しいテキストに置き換えます。

Case

大文字と小文字を区別して検索します。

Wrap

Search again from the start of the file when reaching the end.

All

ファイルの末尾に到達したときに、ファイルの先頭から再度検索します。

Properties

Margin

スクリプトを書くときに、行の長さを適切に保つための右マージンを表示します。マージンの幅は、Margin Column で指定します。

Font Size Ctrl-WheelUp

テキスト表示に使用するフォントの大きさを指定します。

Tab Width

タブ文字を表示する文字スペースの数を指定します。

Indentation

インデント（字下げ）には、「タブ」または「スペース」を使用します。

Footer

テキストエディタのフッターには、テキストが内部保存か外部保存か、また外部ファイルへの未保存の変更があるかどうかが表示されます。フッターには、テキストが内部保存か外部保存か、外部ファイルに未保存の変更があるかどうかが表示されます。外部ファイルの場合、この領域にはテキストファイルのファイルパスも表示されます。

Usage

Running Scripts

最も注目すべきキー操作は Alt-P で、バッファの内容が Blender に内蔵された Python インタプリタによって解析されるようになります。

によって解析されます。この先に進む前に、Blender には完全に機能する Python インタプリタが内蔵されており、Blender 固有のモジュールも多数用意されています。

© [Copyright](#) : This page is licensed under a [CC-BY-SA 4.0 Int. License](#). Last updated on 05/17/2023.

[View Source](#)

[Report issue on this page](#)